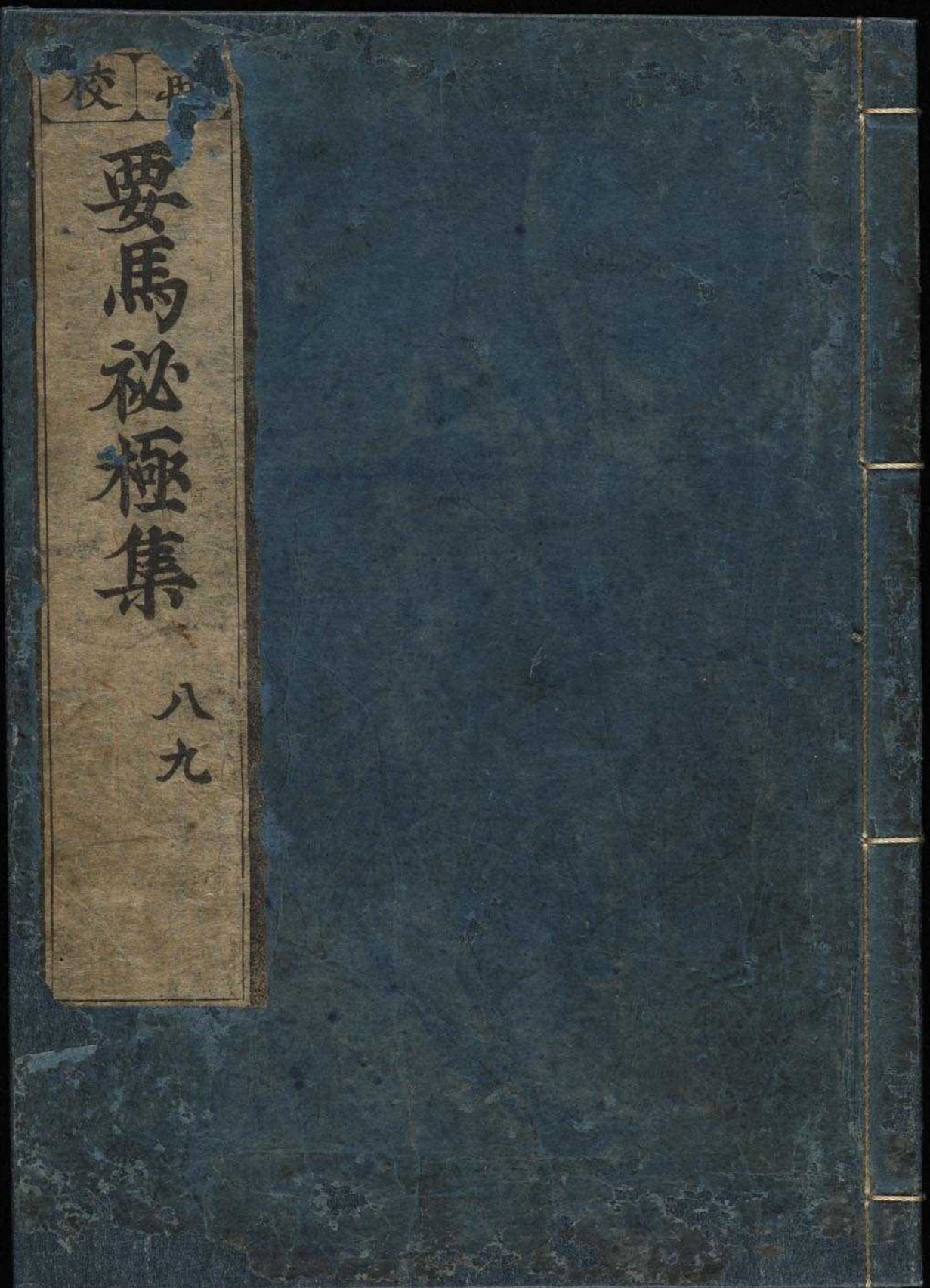


要馬秘極集 八・九

麻布大学所蔵



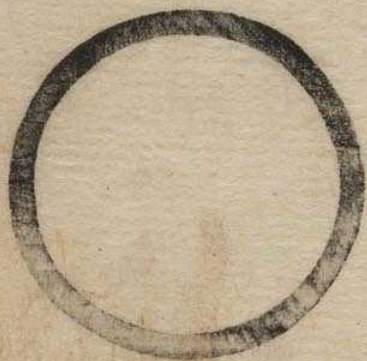
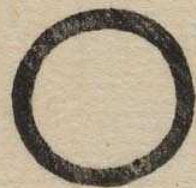


要馬秘極集卷之八

腰論之晷

劍之卷第三

此大漏ハ腰漏ト云ト云  
 又云此ハ腰漏ト云ト云  
 漏ハ子綴ラリノ漏ト云ニツ  
 ハ腰漏ト云ト云ト云  
 カクニゴ〜







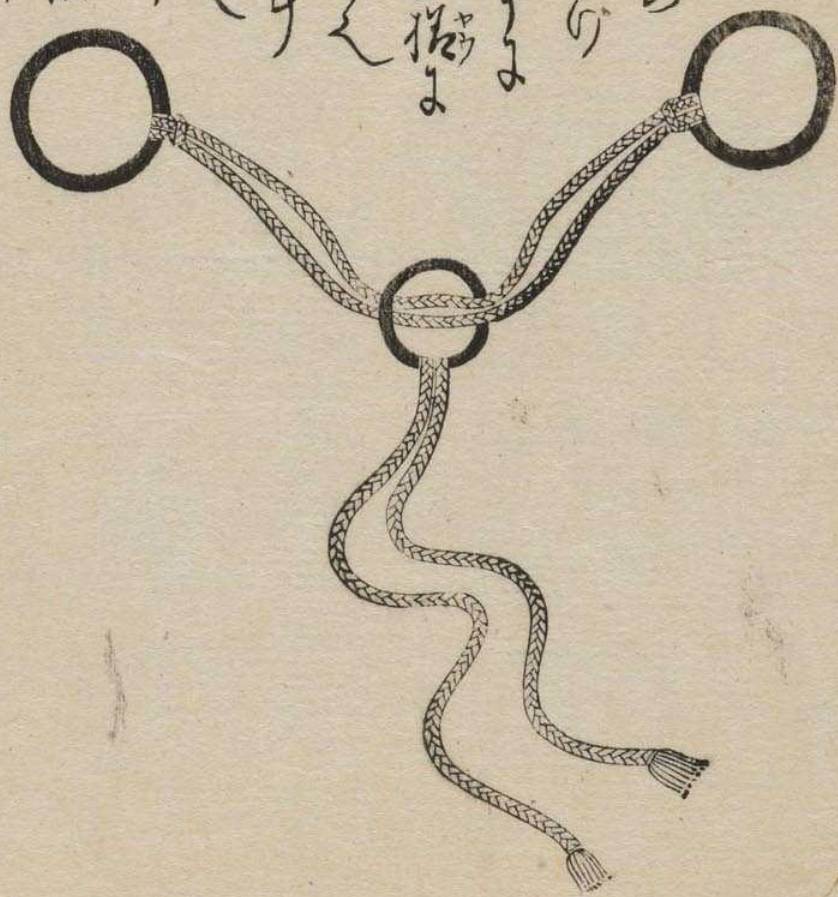






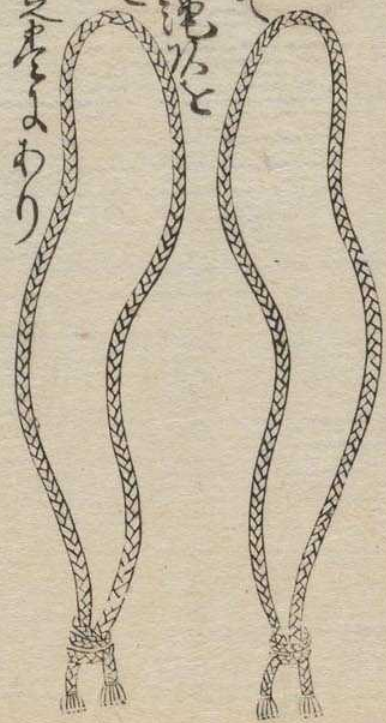
輪好仕掛之圖

此ふけいひんうの  
 張教張のふけ也  
 は輪ふけの付くもの  
 一ツ二ツとひて用ひぬ  
 川糸なりがいの糸に  
 のふは一ひびりきり  
 ぬきとよはひぬき



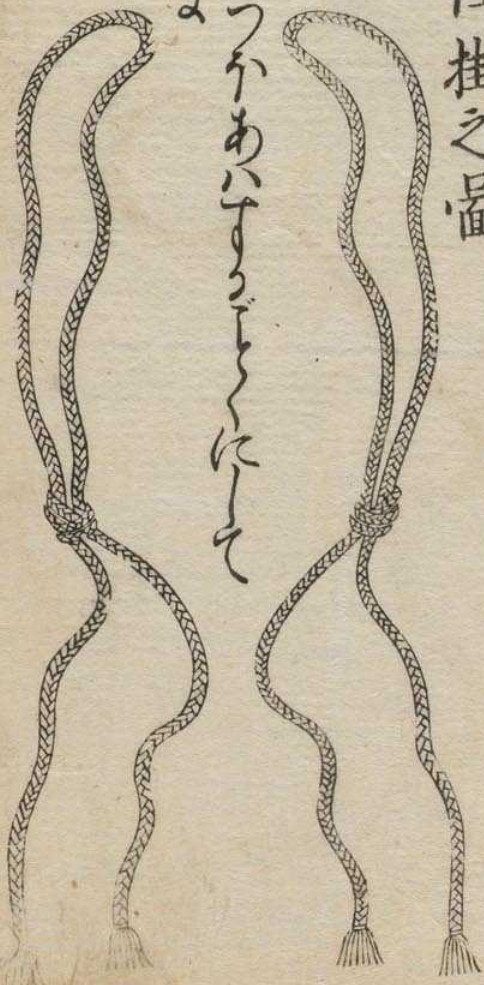
相引仕掛之圖

けふけいひんうの  
 ひとひめのふかか  
 常は下より上と  
 おおひも縄（す）  
 せんはとあまふ



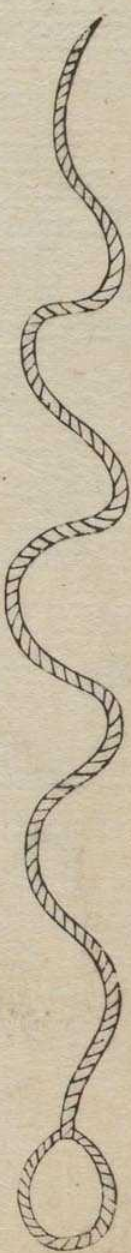
折立之仕掛之圖

けふけいひんうの  
 ようけさうれと  
 せんはとあまふ  
 せんはとあまふ





上手網繩之圖



けよみ縁の繩二筋のよつがよつとひらくちれよこつとらよ  
 とへーひらの繩をかくのよつとひらたの阿ふよみ縁や  
 けん  
 ニひら  
 よこつと

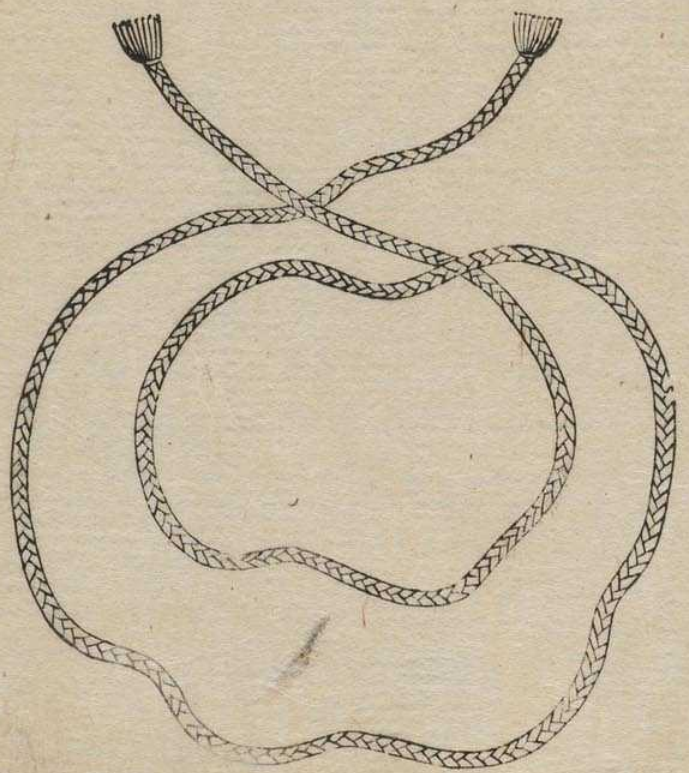
仕掛繩



けうらふつひのろつとろつとひの結へけんひらふつとてよ  
 びよ月の中やろつとろつとろつとろつとてよ

上帶之圖

けうらふつとろつとろつとひけん  
 よらたのろつとろつと  
 とのきよあつとろつと  
 端と對てきよよとろつと  
 けんけんけんけんけん  
 けんけんけんけんけん  
 けんけんけんけんけん  
 けんけんけんけんけん

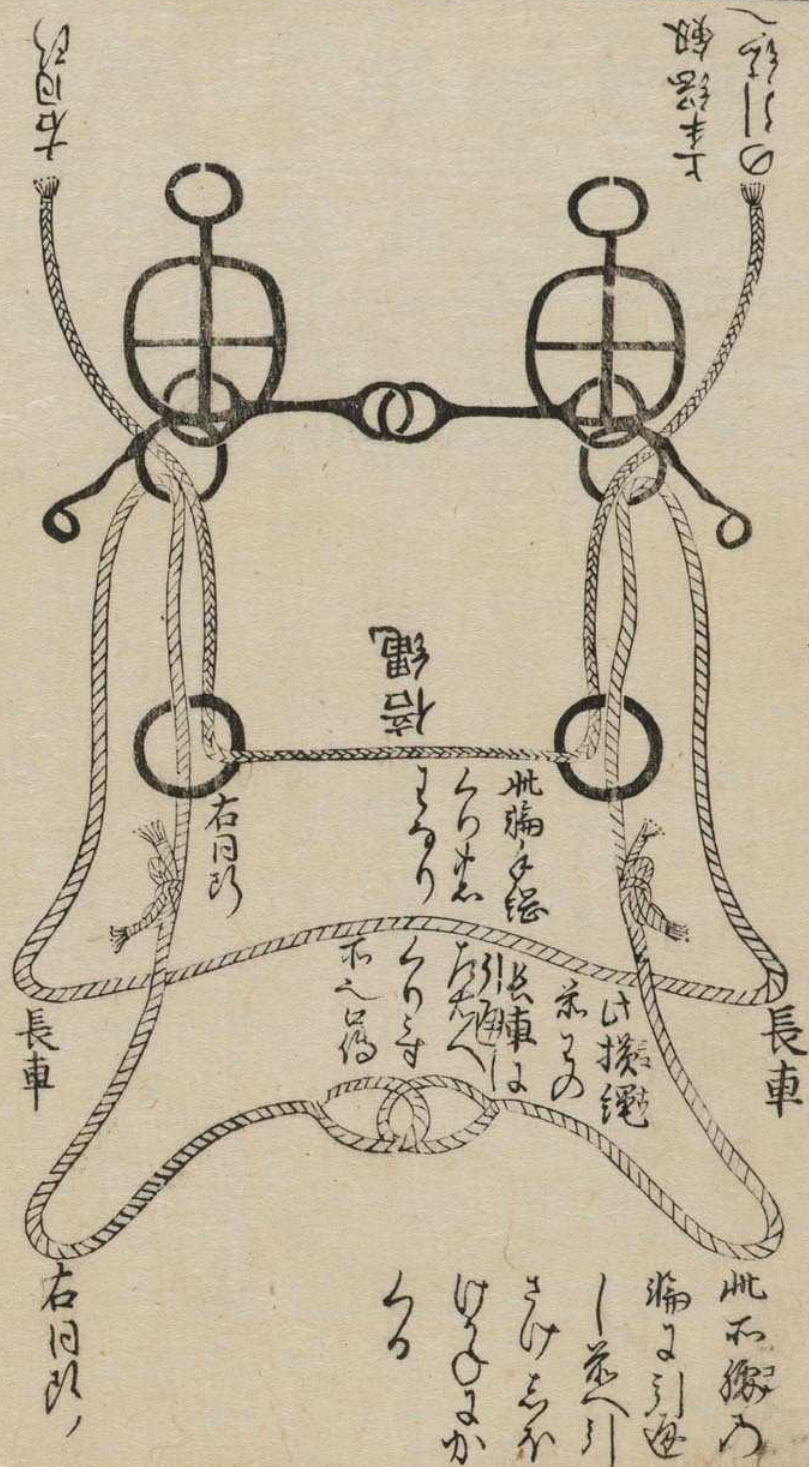








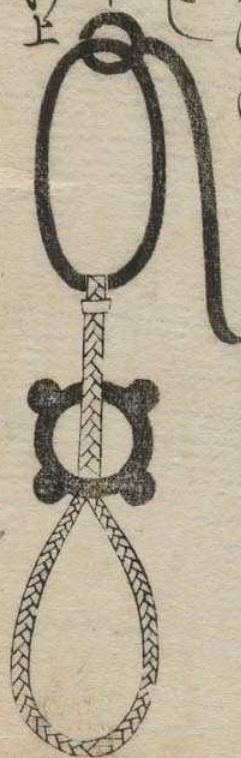
舳連仕掛之圖



舳連仕掛の図は、二つのマスト（長車）が横木（舳連）で繋がれている様子を示している。各マストには複数のロープ（帆柱、帆柱綱、帆柱索）が取り付けられており、それらが船体の下部（右目、左目）へと伸びている。また、船体の下部には「舳連仕掛」の文字があり、その下に「舳連仕掛」の文字がある。さらに、船体の下部には「舳連仕掛」の文字があり、その下に「舳連仕掛」の文字がある。

仕掛金

舳連仕掛の図は、二つのマスト（長車）が横木（舳連）で繋がれている様子を示している。各マストには複数のロープ（帆柱、帆柱綱、帆柱索）が取り付けられており、それらが船体の下部（右目、左目）へと伸びている。また、船体の下部には「舳連仕掛」の文字があり、その下に「舳連仕掛」の文字がある。さらに、船体の下部には「舳連仕掛」の文字があり、その下に「舳連仕掛」の文字がある。

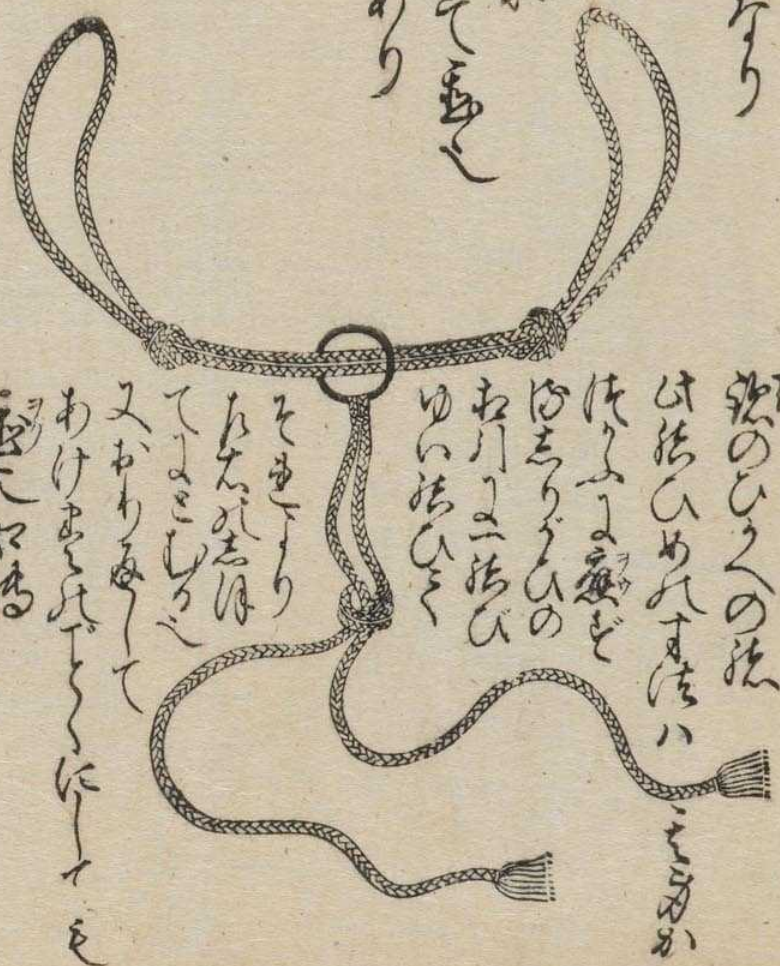


舳連仕掛の図は、二つのマスト（長車）が横木（舳連）で繋がれている様子を示している。各マストには複数のロープ（帆柱、帆柱綱、帆柱索）が取り付けられており、それらが船体の下部（右目、左目）へと伸びている。また、船体の下部には「舳連仕掛」の文字があり、その下に「舳連仕掛」の文字がある。さらに、船体の下部には「舳連仕掛」の文字があり、その下に「舳連仕掛」の文字がある。




跡<sup>タテ</sup>連<sup>シ</sup>の志<sup>シ</sup>けちなり

けうりねがそ痛れ  
月と川通しをたふ  
まねわげざうやふ  
あひめとくくしてあへ  
とすはねれあふあり

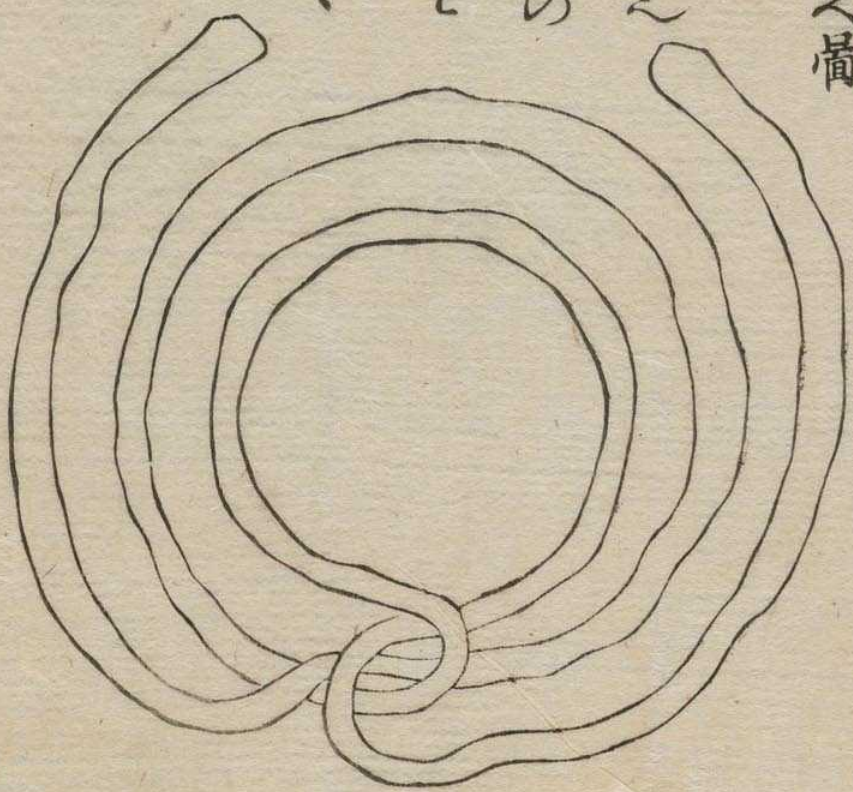


下  
強のひくの法  
け結ひぬれす法ハ  
使ふよ<sup>フ</sup>もど  
ゆきりぢひの  
お月又結ひ  
ゆい結ひと  
そむ下り  
ぬたぬ志保  
てよこむち  
又おわりあつて  
わけをぬく  
動に傳



強<sup>ツヨ</sup>腰<sup>ハル</sup>帶<sup>ビ</sup>之骨

此版常ハ一ムぬめ  
 少クアムナリテカ  
 ンク引ミナリテ  
 我ニハ次牙鞍の  
 又分明也

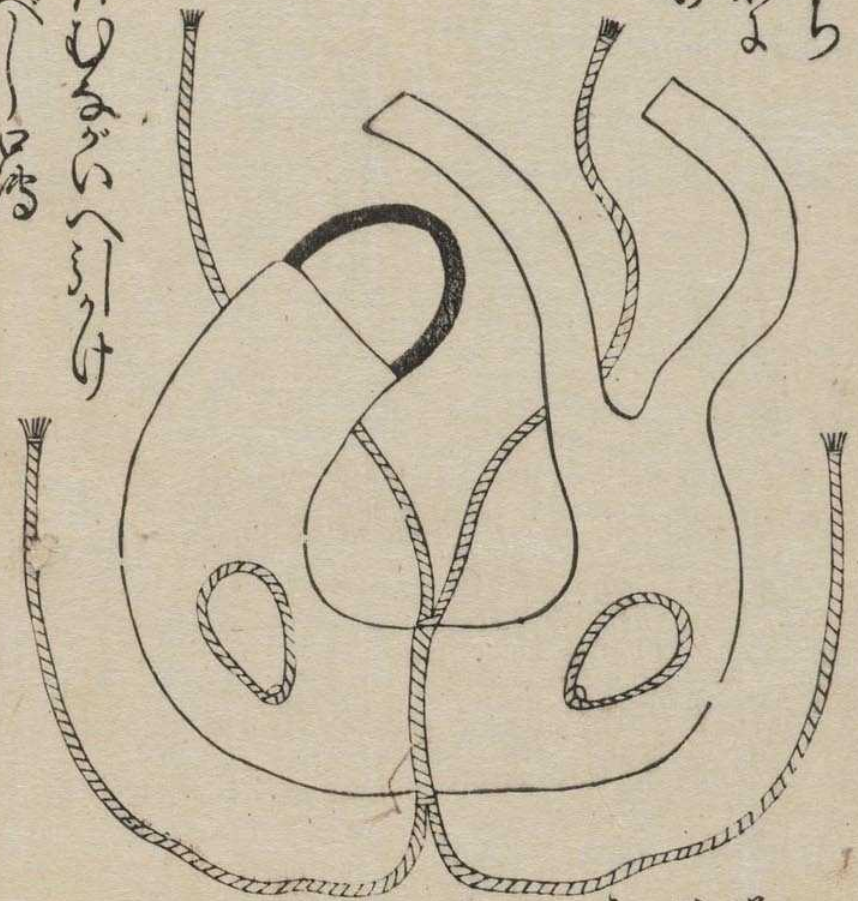


掛月腹心帶之口暈



此掛後常ハなまきりて緩ううづらなまきりて  
はりの端切付のわらと引とどしとらけおえ

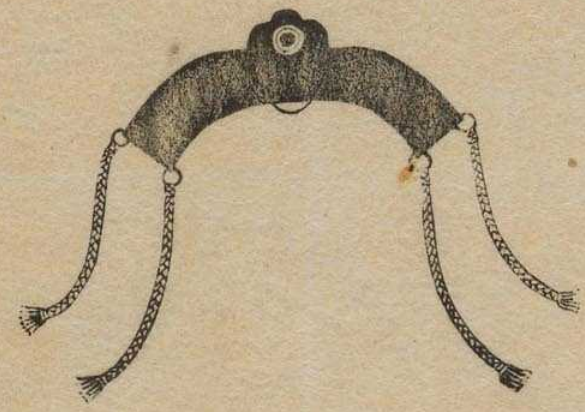
けわのうら  
うれのあま  
引ひけあ  
結びて  
二筋ハ  
はのふ  
とて凡  
たよひ  
とむえ  
糸の二筋ハむざらへ引け  
ゆいてむづら口傳



糸後の縄をく  
すく引け布  
よろの口を  
あめ井ら  
てなうて  
のふとてよ  
ふあむとび  
てとよあけ  
縄うけやう  
わり口傳

頭車之番

けとらうやわら  
うけれやころ  
かけてとあ  
とらうら  
うけよらと  
ゆいてあ甲ハ  
こしでや



あちりこのうらまはする分のあひつひのふてらちなる  
うらちりこのうれ糸ハかきうらふてつと  
らこのあやうとらけるめあつらよとらうらと  
ゆらやうよするものちりけとつひのあまのうら  
まらけ車よとけてはたのね端よとけとらと銀よれ

























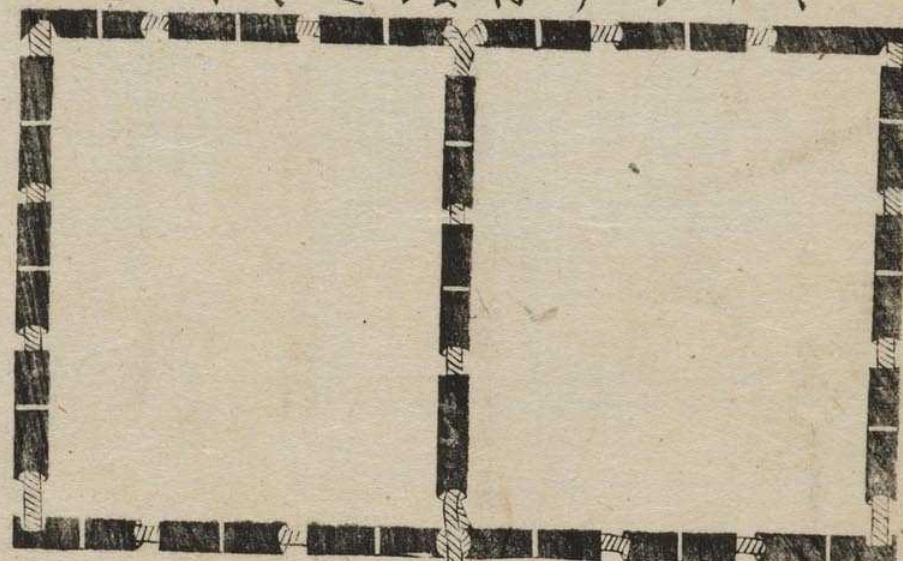






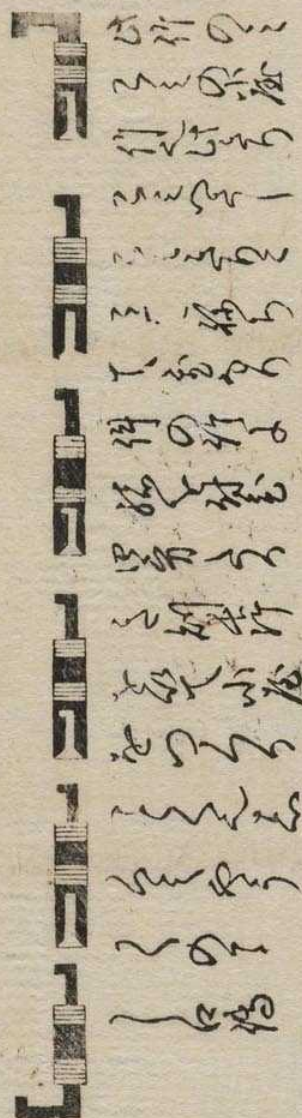
小倉之場

小倉竹も二二  
 ありて二二  
 ては解きあす  
 ぶらりけけ  
 のまゝけけ  
 かうけけ  
 けけけけ  
 けけけけ  
 けけけけ



けけ三三  
 て一方けけ  
 けけけけ  
 けけけけ  
 けけけけ  
 けけけけ

小倉竹之畵



けけけけ

右小倉けけ  
 ありて一方けけ  
 けけけけ



けけけけ

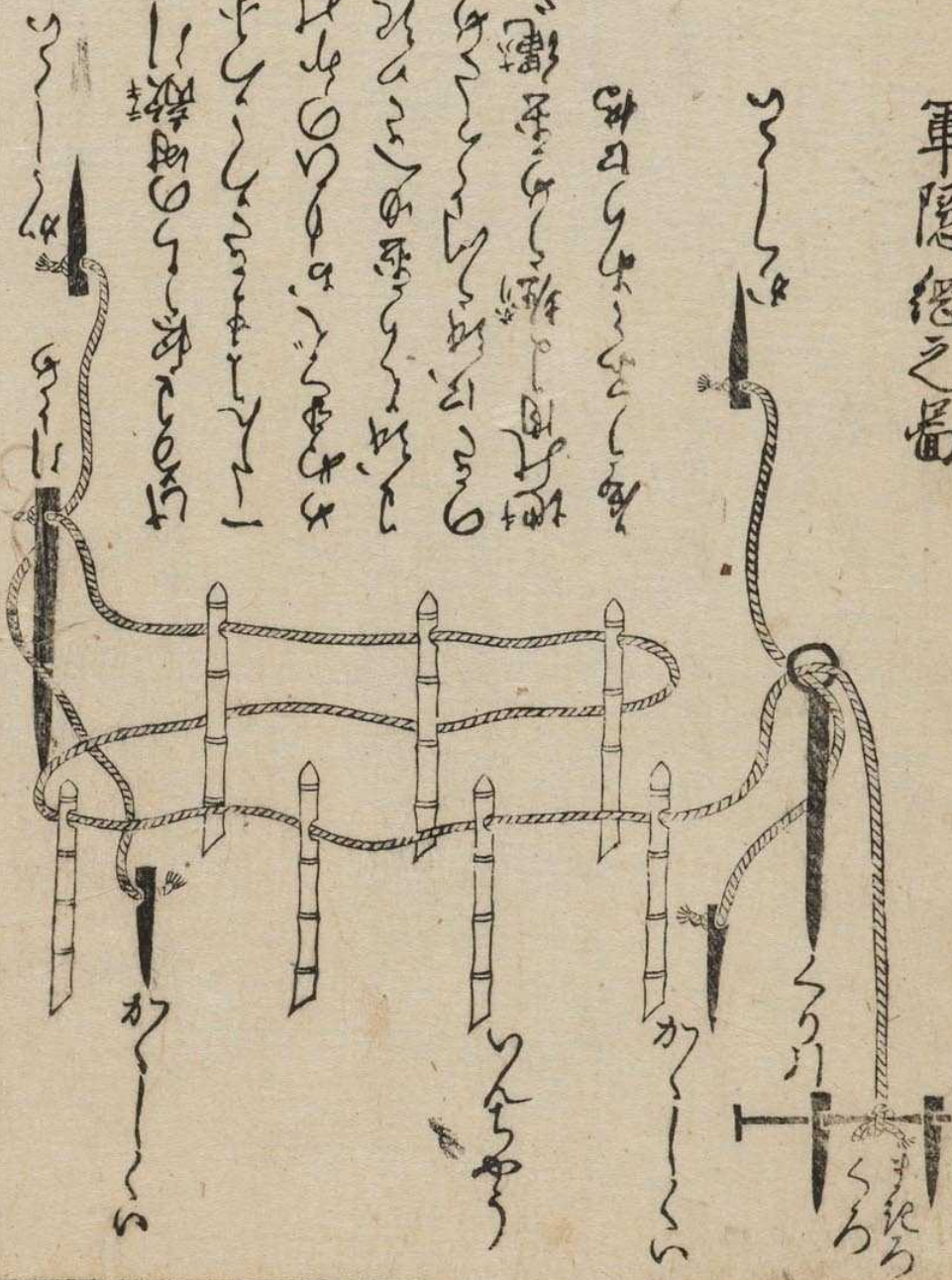






軍隠隠之圖

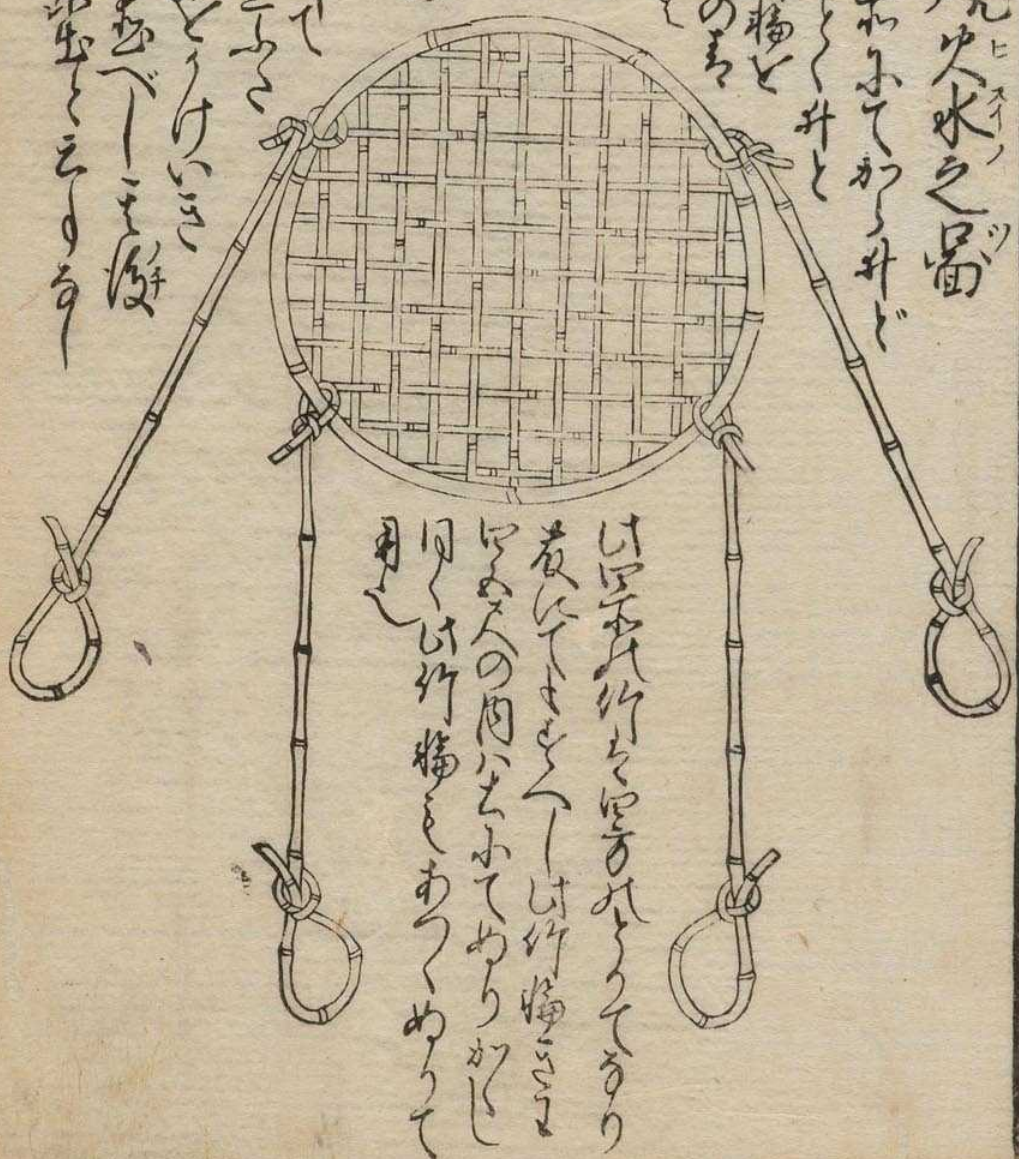
此の図は、軍の隠れ方、すなわち、  
 敵の目から隠れるための方法を示す。  
 竹や草を用いて、周囲の環境と調和  
 させ、敵の偵察を妨げる。また、  
 隠れ場所の入り口や出口を、  
 自然な形で隠す。このようにして、  
 軍の移動や陣営の配置を、  
 敵から隠すことができる。



焼火水之圖

此の図は、焼火水（ヤクカスイ）の図。  
 これは、火を点けるための方法を示す。  
 竹や草を用いて、火の点け方、  
 火の大きさ、火の位置などを、  
 敵の目から隠す。このようにして、  
 火の点け方を、敵から隠すことができる。

竹や草を用いて、火の点け方、  
 火の大きさ、火の位置などを、  
 敵の目から隠す。このようにして、  
 火の点け方を、敵から隠すことができる。













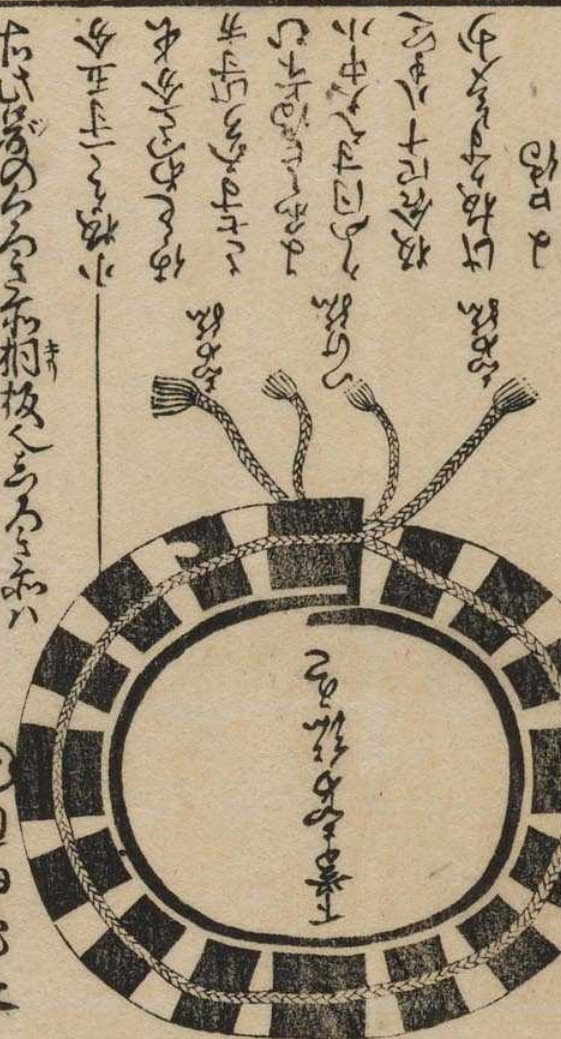
思ふにありて世にゆかりありし時よはるものゝうきやして七八（七八）年或十三（十三）へんをうて  
 ろくふぶと引も後あのを池と引てわきとよりふぬ縁めあうとつがもをどやで  
 もろがあらけあゝあのを文庫うよゝりやとさうておし







躰浮之骨



いん板を上下ひく  
 のよすめをすめ  
 分つて二分は板上下  
 よらんをさあふに  
 せいのせんえけ板  
 ちんちんをさの筒  
 合わりらるる八分は  
 かつふはるる中板を  
 二寸上下ひくふふ  
 いとちめいへはる

① 廻轉板長  
 六寸五分

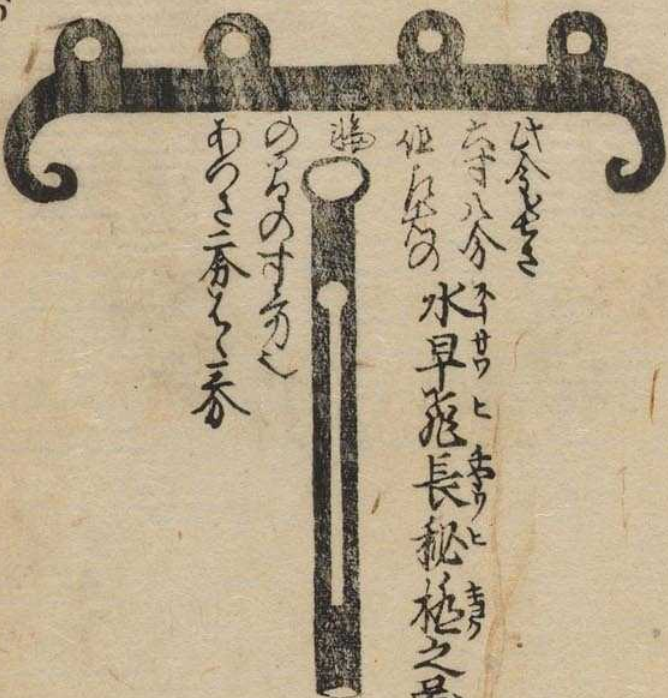
た明もこの板をさへて板を二寸五分はるるさへてさへてはるるい  
 ちんちんのせんえけさへてさへてさへてさへてさへてさへてさへてさへて  
 息の待令にちんちんのせんえけさへてさへてさへてさへてさへてさへてさへて

八分はるるさへてさへてさへてさへてさへてさへてさへてさへてさへて  
 のよすめをすめ  
 よらんをさあふに  
 せいのせんえけ板  
 ちんちんをさの筒  
 合わりらるる八分は  
 かつふはるる中板を  
 二寸上下ひくふふ  
 いとちめいへはる

躰浮之骨

いん板を上下ひく  
 のよすめをすめ

水早飛長秘極之面



いん板を上下ひく  
 のよすめをすめ  
 よらんをさあふに  
 せいのせんえけ板  
 ちんちんをさの筒  
 合わりらるる八分は  
 かつふはるる中板を  
 二寸上下ひくふふ  
 いとちめいへはる

早川  
 文  
 海  
 松  
 松  
 松



















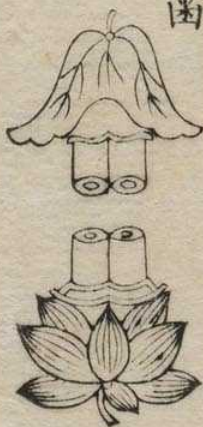




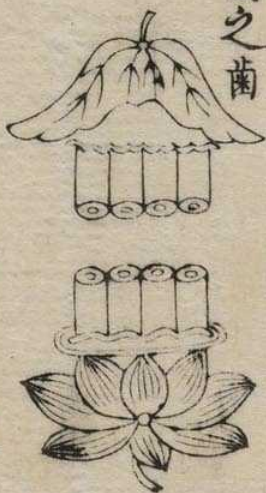
要馬秘極集卷之九上

歲見之事 第一

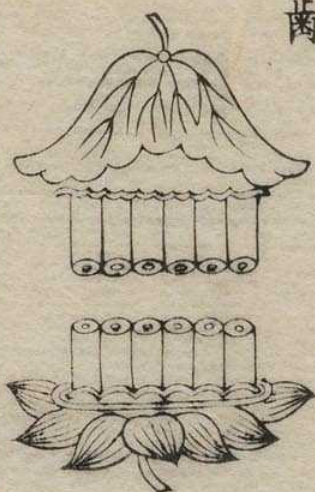
一歲之菌



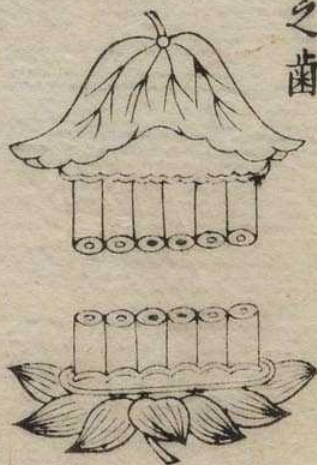
二歲之菌



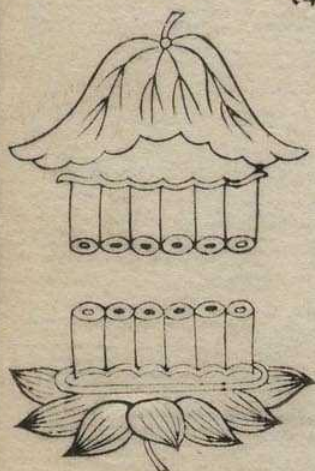
三歲之菌



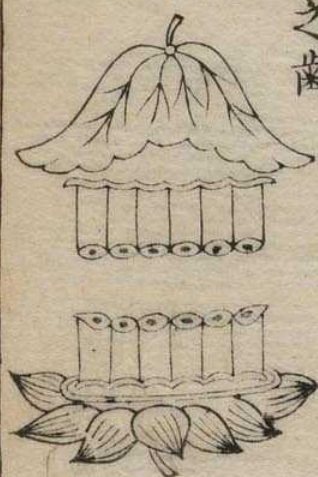
四歲之菌



五歲之菌

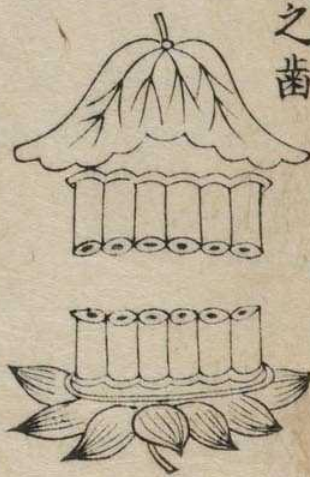
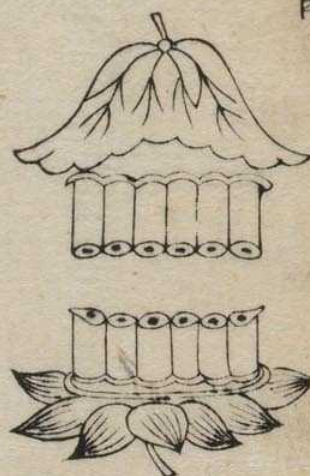


六歲之菌

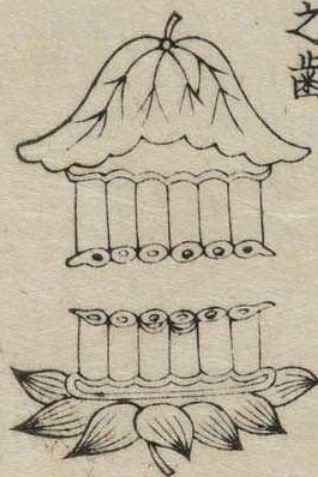
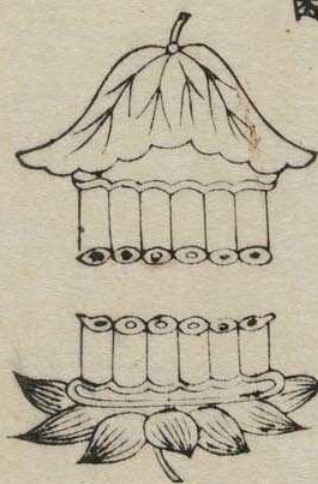




八歲之齒



十歲之齒



二歲駒菡四

四歲駒齒二

六歲內牙生

八歲盡區如一

十歲咬下中區四齒曰

上軀極位之事才二

蠟ロウ面メンしシ云イハい貝カイとトおオせセくクくクくク面オモテ大オホはハ長ナガく耳ミミ短ミジカ  
く耳ミミの根ネ強ツヨクく山ヤマ間マ狭セバく眼メもモ瞋ヒラ大オホはハ角ツノを



て角あり玉向し付目の内肉ありて目間近く目の下  
 肉あり間骨より角まで吹荒く大怒て筋細く口  
 のさきめ狭くはれ皮つるきく下唇怒て二ヶ月骨に  
 かゝるゝあがり揺面の神若くめき紙と掛るゝぶと  
 しくはひ丸頸ありてかそく肉ありて向へ指あり居  
 掛也面も同位也肩の三枚骨さうして襟も遠肩強う  
 して肩の間の穴胸小して肉あり但肩さうして骨さう  
 て肩より頸と胸とれはさ合後退てあ肢の間せづ  
 後節さうして猪膝あがりて但肩より尻先まで  
 あへてはれて小腕不折して尻もさうしておわて但早  
 乃時あはさうて胸の内丸く揺るゝして頸と胸と  
 切遠く骨さうして皮腹を己と細く二重皮切あがり首合  
 ひさく三頭さうしてれきとさうして尾はひさくさうして  
 但尾さうあがりより一重二頭押下百さうしてせいにの

節までさうして遠て内股さうしてさうして股肉厚くさ  
 かり二枚股さうして近くとまり節の上短く細く揺るゝ筋め  
 るて節より下中よけこみ節より下拂ひ掛足間廣く  
 けさうして不折尻さくおさ玉揺振あへ居掛也  
 さうして面もさうして貝と揺るゝぶと面細く耳さく  
 さうしてより耳のひさくさうして山間廣く眼よりて人さう  
 て角かり玉むさうして付目の内肉ありて目の下は肉ありてこ  
 けも間骨より角まで吹荒く大に怒て筋細くさく  
 はれさけめ狭くはれ皮強く厚く下唇怒て二ヶ月骨に  
 かゝるゝあがり揺面の神若くめき紙と掛るゝぶと  
 くはひ丸頸ありてかそく肉ありて向へ指あり居  
 掛也面も同位也肩の三枚骨さうして襟も遠肩強う  
 して肩の間の穴胸小して肉あり但肩さうして骨さう  
 て肩より頸と胸とれはさ合後退てあ肢の間せづ  
 後節さうして猪膝あがりて但肩より尻先まで  
 あへてはれて小腕不折して尻もさうしておわて但早  
 乃時あはさうて胸の内丸く揺るゝして頸と胸と  
 切遠く骨さうして皮腹を己と細く二重皮切あがり首合  
 ひさく三頭さうしてれきとさうして尾はひさくさうして  
 但尾さうあがりより一重二頭押下百さうしてせいにの

鳩胸と云々肩さうして肩よりさうして胸はく肉ありて骨



のふと肩とさ所<sup>ところ</sup>肩より肉<sup>肉</sup>床<sup>た</sup>く物<sup>もの</sup>出と但<sup>たゞ</sup>肩にりりわ  
 と肩より<sup>たふやき</sup>寢て向<sup>むか</sup>延<sup>のび</sup>出とけ上<sup>うへ</sup>是を表<sup>あらわ</sup>せ  
 入<sup>いれ</sup>胸と云々是を肩さうりて肩<sup>かた</sup>腋<sup>わき</sup>を肩<sup>かた</sup>強<sup>つよ</sup>いりり  
 胸を平<sup>へ</sup>く角<sup>かく</sup>より口<sup>くち</sup>角<sup>かく</sup>より肉<sup>にく</sup>を是<sup>こゝ</sup>は向<sup>むか</sup>あけがみり  
 中<sup>な</sup>是<sup>こゝ</sup>を表<sup>あらわ</sup>せ

左肩と云ハ是も肩さうりて肩もろ連上の肩せんく  
 とぬくみて下は肩よりタヤキ飛スグてゐよ是と打出とをこ  
 ハヤカメ

早ハヤ形カタル之事コト 力チカラ三ミ

上ふみ大早道と拍子ふてもれくわうふてもれくか  
けうと思へど拍子何れ足次とん定くる一お分福足ら  
かけと計んは足次大早とて此計よりのもてぬるま  
もんをうさね程と

早馬ハヤウマは拍子ヒヤウシ此馬コノウマを足タビ此出コノデへ入イる拍子ヒヤウシは依ヨて大早オホハヤなる

早馬を場末に置く也時馬は是の如くゆかに乗者初めを  
て鞍またまゝぬきあり是ハ七候のよれ早馬と可也  
早馬は二ツ乗る一みちありを乗人とりて乗  
内どんずと援急をく歩む馬をよて一ハハ乗る  
人よりさゆくゆてあやますり馬を下也

早馬ハヤウマ目メあアらラうウふフんンゆユハ我ガ目メあアと早ハヤくあアらラうウ連ツラ  
くあアらラうウ成モツク事コト前マヘ庭トエは是コノと能ヤ可カ目メ之シ

大早道の馬聴是拂時うゝれ見らあまり早くふか死と  
 ぬべー同馬ゆくとうゝの<sup>ミ</sup>見ざ<sup>ハ</sup>付時足<sup>サ</sup>出切うゝと可  
 ぬ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>うゝうゝれ見さ<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>足<sup>サ</sup>出<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>りうゝうゝ大早<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>と  
 又云<sup>ハ</sup><sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>お聴<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>是<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>計<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>見<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>時<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>前<sup>ハ</sup>聴<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>凡<sup>ハ</sup>  
 うゝゝ見<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>と

早馬ハ子々こ々こ素すて此段地このちの時肩ときかたと振ふるり馬うまれぬに  
大拍子おほひきより小拍子こびきより細こく大足おほあしより素すてこより小足こあしより











上間より中間迄れ事

眼と肩骨のあいだ肉をくくけく肩骨は角あれた事  
面の極うみたはくくくめと眼はくくく眼はくくく  
くくく眼はくくく眼はくくく眼はくくく眼はくくく  
と極うみたはくくく眼はくくく眼はくくく眼はくくく  
角をてて玉れ中さくくく眼はくくく眼はくくく眼はくくく  
極うみたはくくく眼はくくく眼はくくく眼はくくく  
肝と結く

肩先の骨下り肩の骨先いふくくく角が

胸あ骨のあいだ結く

三枚骨さくくく襟を遠く事

お股肩はくくくはくくく向へお事

は股との重と細くくくく事

お三頭押下はくくく二重は切あ事

百会よりせいまいの節まく股結を遠く事

お股は肉厚く事

お股は肉厚く事

お股は肉厚く事

お股は肉厚く事

お股は肉厚く事

お股は肉厚く事

お股は肉厚く事



頸をく胸をささりて足る前膝上此位より免とて人へ但可  
為中斷し頸短く胸短く事と同位也

肩上の位より膝中より免とて人へ但肩中此位より膝中より免と  
肩膝上の位より前膝の端付并足間中此位より免とて人へ

但肩膝中の位より右れ端付免とて人へ  
肩膝上の位より前へ居掛股能く遠節より下をさ  
さく節より下をささりて免とて人へ節より下踏躰て  
節より下をささりて免とて人へ

振舞上の位より二重皮切あうて免とて人へ但此節思  
ささり押へて

三頭下より股の曲遠上の位より節より下中より跳こまに  
やと免とて人へ

股より曲遠節より下中より跳こまに  
やと免とて人へ

入尾は居掛より下より人へ但此節思  
押へて右より何と早馬の理也

要馬秘極集卷之九上

歳見之巻終

要馬秘極集卷之九中

膝押之事 才七

強肝之事 下肝之事

曲肝之事

すゐこのありの下より横一寸五分より筋二筋と二筋とを  
同様の早馬にあてせぬ事とて人へ此節思もれ也故に押への筋  
とを膝より下より免とて人へ

伏兔とわく居より下より免とて人へ此節思もれ也故に押への筋  
とを膝より下より免とて人へ

上頸あより下より事 并頸肉之事



三枚骨のゆりゆり事

胸のさあを肩よりささけり事松新と此位より中膝より

胸のゆりゆり使ひ事

お股あち振かり但もろ牛膝より一膝白へりん

お股押へ

お股く寝せり事お股よりの位より可為中事

お抱寝抱事但お股よりの位より可為中事

角合はば股より

二重切あり事お股よりの位より中膝押へ

お股のささけり大間の事

お股く長股よりささけり但猿股と云

お股節より血付り

お股のゆりゆり中膝より

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

お股のささけり事又お股のささけり事

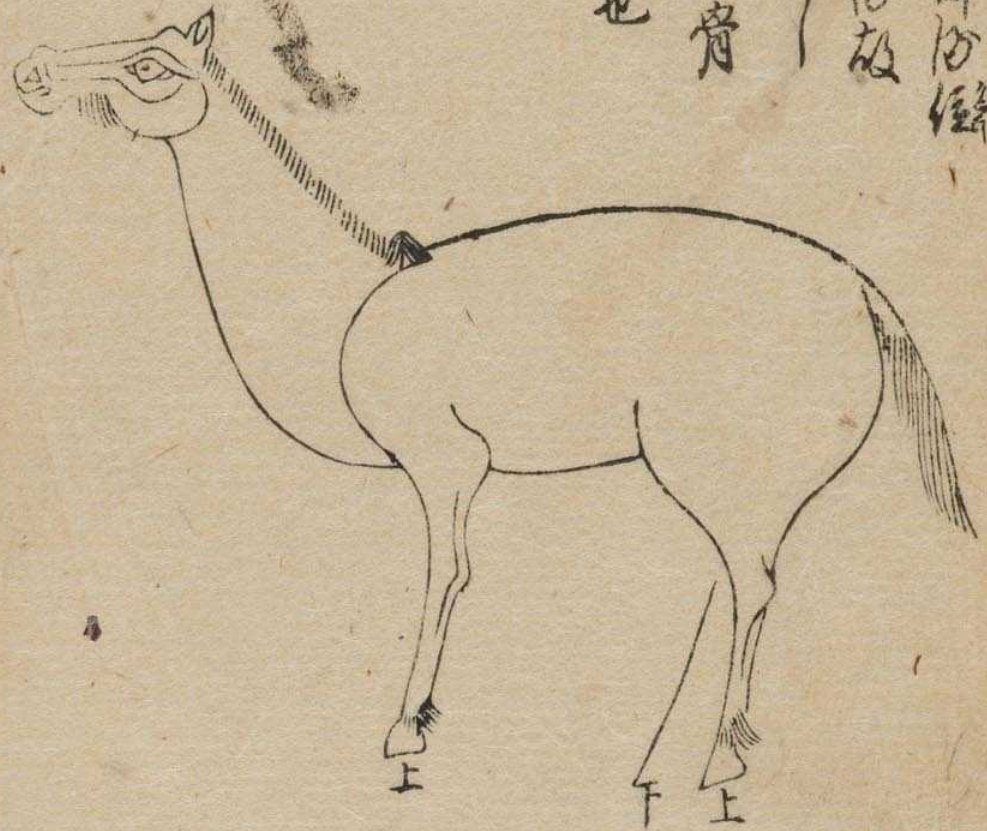
お股のささけり事又お股のささけり事





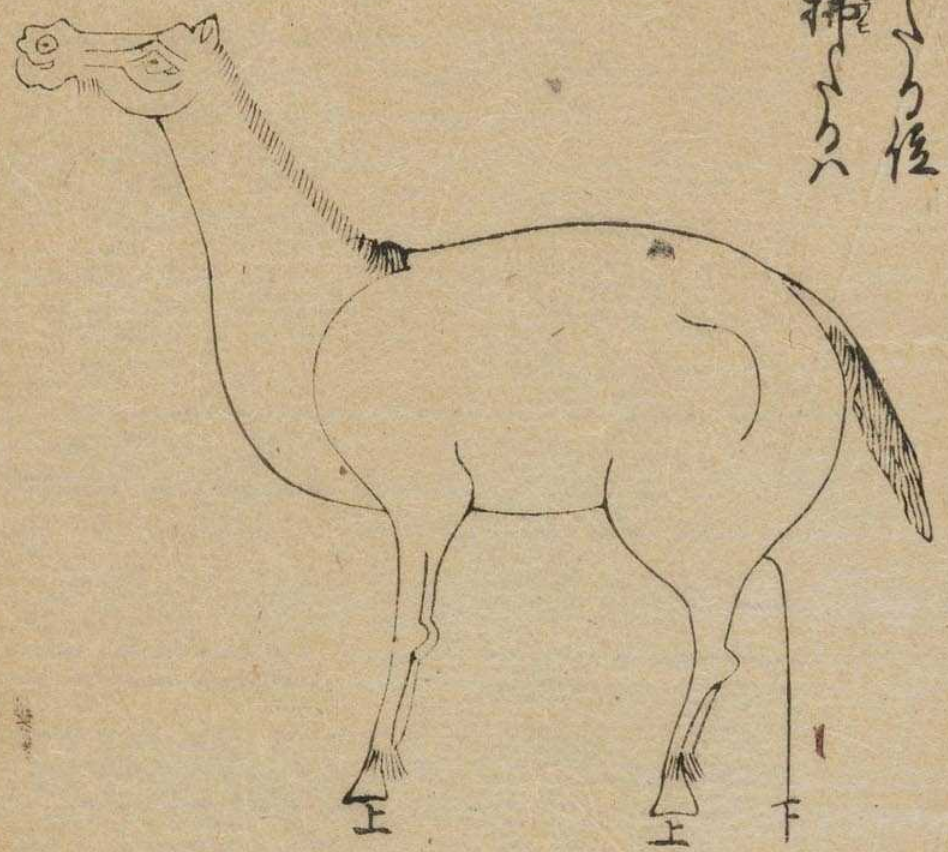


け馬中より又居掛ゆ候  
あつ候より居掛ゆ候  
體強く拂て  
蹄必よりい押へ脊骨  
強より三頭強下也



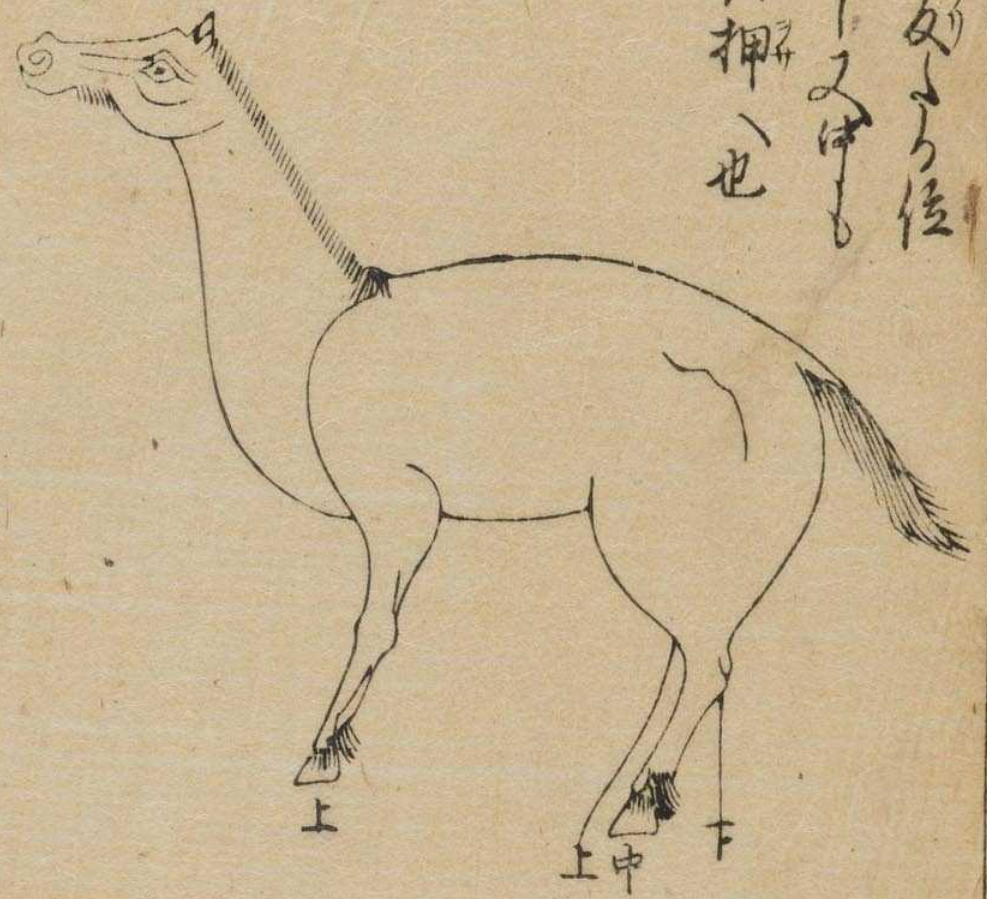
♀

け馬居よりい候  
體強く拂て  
押へ

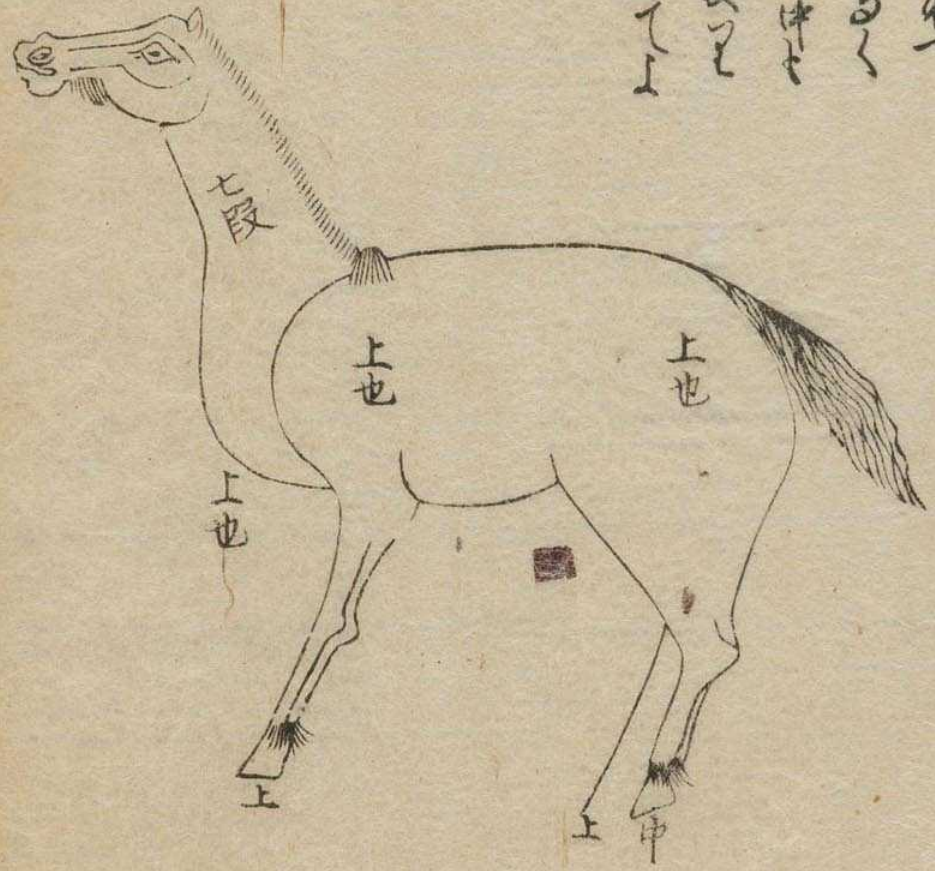




け馬中又居方より位  
 軀踏込てより又中  
 より拂よりハ押入也



け馬切肩の位希へ  
 居掛て頸上へより  
 付より拂て中  
 より胸ふて居方  
 より又軀踏込て  
 より  
 修くは偽





從引落之事 第十

仁候之國人之事

口候はくちの第一寸のうみへ他一寸五分までを同意面  
 船何れの中へ但前船の内より一尺も二尺も切らる事と  
 此舟よりハ口候のうみより一尺も切らずに中船と  
 云右口候の足垂々々ふき足あそむんこび足あそむ  
 なく候くに拍子と揚てたりうふき候是とぞうへ  
 是と云へ但振舞の中の時ゆく足あそむ大さあり  
 とくも乗れ位の中より外へ出づらん振舞川原を  
 石并押へれ見届うけ要也



切離<sup>チリ</sup>窕<sup>タウ</sup>不<sup>レ</sup>むらげ<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>軀<sup>キ</sup>也<sup>ナリ</sup>是<sup>レ</sup>並<sup>ニ</sup>向<sup>ム</sup>頭<sup>カシ</sup>と延<sup>ビ</sup>出<sup>ス</sup>  
強<sup>ク</sup>く<sup>レ</sup>肩<sup>カシ</sup>より<sup>レ</sup>肩<sup>カシ</sup>より<sup>レ</sup>窕<sup>タウ</sup>て<sup>テ</sup>大<sup>ニ</sup>足<sup>ヲ</sup>は<sup>レ</sup>投<sup>ナゲ</sup>出<sup>ス</sup>一<sup>ニ</sup>歩<sup>ヲ</sup>み  
て<sup>テ</sup>大<sup>ニ</sup>拍<sup>ハク</sup>子<sup>シ</sup>一<sup>ニ</sup>利<sup>リ</sup>食<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>ふ<sup>ル</sup>た<sup>ニ</sup>く<sup>ク</sup>大<sup>ニ</sup>拍<sup>ハク</sup>子<sup>シ</sup>は<sup>レ</sup>投<sup>ナゲ</sup>出<sup>ス</sup>と<sup>モ</sup>と<sup>モ</sup>運<sup>ハク</sup>足<sup>ヲ</sup>  
と<sup>モ</sup>右<sup>ミナミ</sup>左<sup>ヒダリ</sup>任<sup>ニ</sup>ハ<sup>レ</sup>面<sup>ヲ</sup>は<sup>レ</sup>んや<sup>ウ</sup>肝<sup>カシ</sup>旁<sup>ヤウ</sup>之<sup>ノ</sup>隆<sup>リョウ</sup>也<sup>ナリ</sup>軀<sup>キ</sup>切<sup>キ</sup>る<sup>ル</sup>爲<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>  
并<sup>ニ</sup>押<sup>ヲ</sup>へ<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>見<sup>ミ</sup>極<sup>キョク</sup>也<sup>ナリ</sup>

七<sup>ニ</sup>使<sup>シ</sup>目<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>み<sup>ミ</sup>れ<sup>ル</sup>

七<sup>ニ</sup>使<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>み<sup>ミ</sup>れ<sup>ル</sup>す<sup>ル</sup>は<sup>レ</sup>く<sup>ク</sup>之<sup>ノ</sup>間<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>面<sup>ヲ</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>い<sup>ハ</sup>面<sup>ヲ</sup>ハ<sup>レ</sup>背<sup>セ</sup>亮<sup>リョウ</sup>く<sup>ク</sup>  
筋<sup>スベ</sup>少<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup>毛<sup>モウ</sup>筋<sup>スベ</sup>小<sup>コ</sup>面<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>て<sup>テ</sup>眼<sup>ガン</sup>大<sup>ダイ</sup>ふ<sup>フ</sup>は<sup>レ</sup>九<sup>ニ</sup>を<sup>レ</sup>て<sup>テ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>レ</sup>  
し<sup>シ</sup>亮<sup>リョウ</sup>く<sup>ク</sup>目<sup>メ</sup>は<sup>レ</sup>内<sup>ナ</sup>周<sup>シュウ</sup>は<sup>レ</sup>少<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>と<sup>モ</sup>稱<sup>ショウ</sup>て<sup>テ</sup>と<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>  
ま<sup>マ</sup>へ<sup>ヘ</sup>一<sup>ニ</sup>頭<sup>カシ</sup>を<sup>レ</sup>く<sup>ク</sup>向<sup>ム</sup>強<sup>キョウ</sup>く<sup>ク</sup>若<sup>ニ</sup>く<sup>ク</sup>り<sup>リ</sup>て<sup>テ</sup>延<sup>ビ</sup>出<sup>ス</sup>同<sup>ドウ</sup>面<sup>ヲ</sup>も<sup>モ</sup>同<sup>ドウ</sup>之<sup>ノ</sup>肩<sup>カシ</sup>  
之<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>骨<sup>ハネ</sup>く<sup>ク</sup>み<sup>ミ</sup>れ<sup>ル</sup>く<sup>ク</sup>さ<sup>サ</sup>り<sup>リ</sup>て<sup>テ</sup>襟<sup>エリ</sup>より<sup>レ</sup>出<sup>ス</sup>遠<sup>トウ</sup>て<sup>テ</sup>膝<sup>ヒザ</sup>中<sup>ナカ</sup>く<sup>ク</sup>  
胸<sup>ムネ</sup>の<sup>ノ</sup>内<sup>ナ</sup>筋<sup>スベ</sup>く<sup>ク</sup>切<sup>キ</sup>る<sup>ル</sup>も<sup>モ</sup>窕<sup>タウ</sup>く<sup>ク</sup>頸<sup>ケイ</sup>と<sup>モ</sup>胸<sup>ムネ</sup>と<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>切<sup>キ</sup>遠<sup>トウ</sup>百<sup>ヒャク</sup>と<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>  
ア<sup>ア</sup>せ<sup>セ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>節<sup>セツ</sup>向<sup>ム</sup>く<sup>ク</sup>強<sup>キョウ</sup>く<sup>ク</sup>遠<sup>トウ</sup>て<sup>テ</sup>股<sup>モモ</sup>踏<sup>フミ</sup>延<sup>ビ</sup>て<sup>テ</sup>筋<sup>スベ</sup>より<sup>レ</sup>下<sup>シタ</sup>中<sup>ナカ</sup>に<sup>ニ</sup>  
踏<sup>フミ</sup>込<sup>コ</sup>め<sup>メ</sup>る<sup>ル</sup>者<sup>モノ</sup>七<sup>ニ</sup>使<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>任<sup>ニ</sup>と<sup>モ</sup>軀<sup>キ</sup>切<sup>キ</sup>る<sup>ル</sup>も<sup>モ</sup>窕<sup>タウ</sup>く<sup>ク</sup>肉<sup>ニク</sup>並<sup>ニ</sup>窕<sup>タウ</sup>筋<sup>スベ</sup>

後<sup>アト</sup>掛<sup>カ</sup>足<sup>ソク</sup>を<sup>レ</sup>移<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup>少<sup>シ</sup>堅<sup>ケン</sup>肉<sup>ニク</sup>は<sup>レ</sup>ん<sup>ニ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>レ</sup>足<sup>ソク</sup>並<sup>ニ</sup>向<sup>ム</sup>一<sup>ニ</sup>軀<sup>キ</sup>  
后<sup>アト</sup>掛<sup>カ</sup>頸<sup>ケイ</sup>延<sup>ビ</sup>出<sup>ス</sup>一<sup>ニ</sup>肩<sup>カシ</sup>より<sup>レ</sup>窕<sup>タウ</sup>大<sup>ダイ</sup>は<sup>レ</sup>延<sup>ビ</sup>く<sup>ク</sup>向<sup>ム</sup>な<sup>ニ</sup>け<sup>ケ</sup>出<sup>ス</sup>と<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>  
也<sup>ナリ</sup>一<sup>ニ</sup>大<sup>ダイ</sup>拍<sup>ハク</sup>子<sup>シ</sup>こ<sup>コ</sup>と<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>延<sup>ビ</sup>足<sup>ソク</sup>と<sup>モ</sup>右<sup>ミナミ</sup>左<sup>ヒダリ</sup>任<sup>ニ</sup>ハ<sup>レ</sup>面<sup>ヲ</sup>軀<sup>キ</sup>  
の<sup>ノ</sup>容<sup>ヨウ</sup>れ<sup>レ</sup>ん<sup>ニ</sup>筋<sup>スベ</sup>より<sup>レ</sup>引<sup>ヒキ</sup>筋<sup>スベ</sup>を<sup>レ</sup>押<sup>ヲ</sup>へ<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>見<sup>ミ</sup>極<sup>キョク</sup>也<sup>ナリ</sup>

右<sup>ミナミ</sup>足<sup>ソク</sup>之<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>目<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>み<sup>ミ</sup>れ<sup>ル</sup>は<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>付<sup>ツ</sup>は<sup>レ</sup>足<sup>ソク</sup>付<sup>ツ</sup>と<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>大<sup>ダイ</sup>事<sup>ジ</sup>之<sup>ノ</sup>  
系<sup>ケイ</sup>筋<sup>スベ</sup>は<sup>レ</sup>同<sup>ドウ</sup>ハ<sup>レ</sup>我<sup>ガ</sup>と<sup>モ</sup>同<sup>ドウ</sup>と<sup>モ</sup>事<sup>ジ</sup>を<sup>レ</sup>見<sup>ミ</sup>極<sup>キョク</sup>也<sup>ナリ</sup>者<sup>モノ</sup>あり<sup>リ</sup>と<sup>モ</sup>軀<sup>キ</sup>  
は<sup>レ</sup>相<sup>ソウ</sup>遠<sup>トウ</sup>て<sup>テ</sup>系<sup>ケイ</sup>べ<sup>ベ</sup>く<sup>ク</sup>ん<sup>ン</sup>

八<sup>ニ</sup>五<sup>ニ</sup>使<sup>シ</sup>軀<sup>キ</sup>定<sup>テイ</sup>事<sup>ジ</sup>

面<sup>オモテ</sup>れ<sup>レ</sup>目<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>眼<sup>ガン</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ジ</sup>

肩<sup>カシ</sup>の<sup>ノ</sup>目<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>三<sup>サン</sup>板<sup>ハク</sup>骨<sup>ハネ</sup>下<sup>カ</sup>并<sup>ニ</sup>襟<sup>エリ</sup>並<sup>ニ</sup>遠<sup>トウ</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ジ</sup>

胸<sup>ムネ</sup>の<sup>ノ</sup>目<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>次<sup>ツギ</sup>骨<sup>ハネ</sup>下<sup>カ</sup>事<sup>ジ</sup>

筋<sup>スベ</sup>の<sup>ノ</sup>目<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>股<sup>モモ</sup>並<sup>ニ</sup>遠<sup>トウ</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ジ</sup>

足<sup>ソク</sup>は<sup>レ</sup>目<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>踏<sup>フミ</sup>付<sup>ツ</sup>れ<sup>ル</sup>

右<sup>ミナミ</sup>五<sup>ゴ</sup>之<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>と<sup>モ</sup>筋<sup>スベ</sup>より<sup>レ</sup>下<sup>シタ</sup>中<sup>ナカ</sup>に<sup>ニ</sup>



四段ハ十二と川落但十三と五段の位ニ  
 五段ハ十五と川落但十六と五段の位ニ  
 六段ハ十八と川落但十九と六段の位ニ  
 七段ハ廿一也此ハ川落といふと右月〇といひて上中

下と川落ニ  
 若船の足並位と見定事

四段ハ五段の位ニ船四段の位ハ船と舳と定前と船ハ川  
 落下〇といふと五段の位ニ次下掛渡ハ四段ニ  
 同 前四段の位ニ船五段の位ハ船と舳と定前と船ハ川落  
 下〇といふと五段の位ニ次下掛渡ハ五段ニ  
 同 前五段の位ニ船六段の位ハ船と舳と定前と船ハ川落  
 下〇といふと五段の位ニ次下掛渡ハ五段ニ

六段ハ七段の位ニ船六段の位ハ船と舳と定前と船ハ川落  
 下〇といふと六段の位ニ次下掛渡ハ六段ニ  
 同 前六段の位ニ船七段の位ハ船と舳と定前と船ハ川落  
 下〇といふと六段の位ニ次下掛渡ハ六段ニ  
 七段ハ船七段の位ニ次下〇といふと七段の位ニ次下

掛渡ハ七段也  
 息之定早道ニ歩む時之事

鹿毛	鶴毛	七枚
鵲毛	鵲毛	九枚
鶴毛	何毛	十枚
黒毛	何毛	十枚
大衆		

小衆	下十日	上肝
	中十日	中肝
	上十日	下肝

二分尺ノ外



息當事 第十一

息と當り、百五十間、此場小て、吾<sup>ワ</sup>息<sup>イ</sup>と返<sup>ヘ</sup>り、  
息と返<sup>ヘ</sup>り、馬と當り、時早<sup>ハヤ</sup>、是<sup>コノ</sup>十分出<sup>デ</sup>る、  
息と當り、此<sup>コノ</sup>法<sup>ハフ</sup>、元<sup>ハツ</sup>經<sup>キヨ</sup>此<sup>コノ</sup>文<sup>モノ</sup>也、大<sup>オホ</sup>秘<sup>ヒ</sup>事<sup>シ</sup>、六<sup>ム</sup>尺<sup>シツ</sup>五<sup>イ</sup>寸<sup>ス</sup>、六<sup>ム</sup>寸<sup>ス</sup>、六<sup>ム</sup>寸<sup>ス</sup>、  
四<sup>ヨ</sup>尺<sup>シツ</sup>、八<sup>ハチ</sup>寸<sup>ス</sup>、

重玉玉

百五十間、馬一返、字数

四百八十當

百間

三百二十當

五十間

百六十當

十間

三十二當

一間

三當

五尺八

三八

百五十間、馬一返、字数

三百八十四當

百間

二百六十當

五十間

百三十當

十間

二十六當

六尺八

五二一六

百五十間、馬一返、字数

二百八十八當

百間

百九十二當

五十間

九十六當

十間

二十當

一間

二當

七尺八

二半當

百五十間、馬一返、字数

四丈

百五十間、馬一返、字数

百九十二當

百間

百二十八當

五十間

六十四當

十間

十三當

三間

四當



一間

一ツ三分當

馬場と百五十間よりおそれ同候の早馬は合てす  
 大右の息と當て馬といひ枝子に達する候へて  
 右より何れ早馬の理に畢竟達早と知べきに  
 之馬の系寂中より我う前へ来る時目より一は  
 玉て月へなりともかへなりとも一息の休まりあり  
 又目より一は玉て次の馬系より時又伸るなり  
 ありて前れ目より一は玉て息はなりとも  
 ありて後れ目より一は玉て前れ目より一は玉て  
 ありて此間何れなりとて一は玉て何れなりと  
 たりとて一は玉て一は玉て一は玉て一は玉て

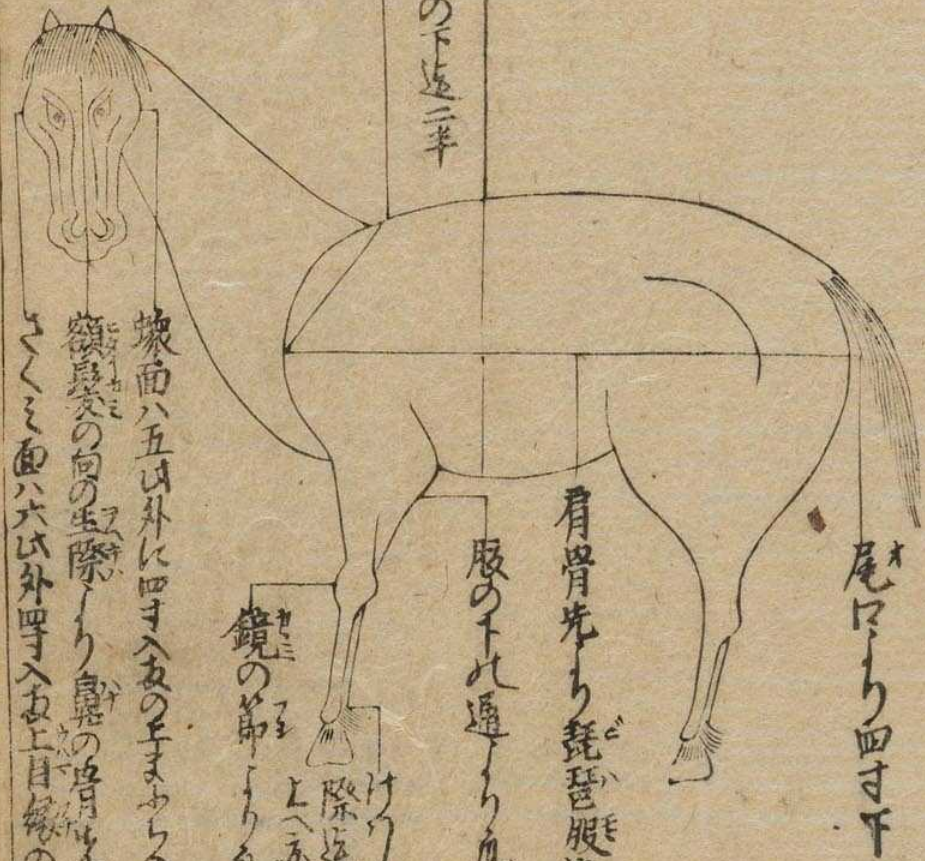
ある極極集巻之九中

躰押之巻終

要馬秘極集巻之九下

馬形

馬大小の事



一ス八寸

脊骨より腹の下迄三寸

肩骨より琵琶腰迄二寸

腰の下迄通より九先迄三寸

頸の節より九先迄三寸

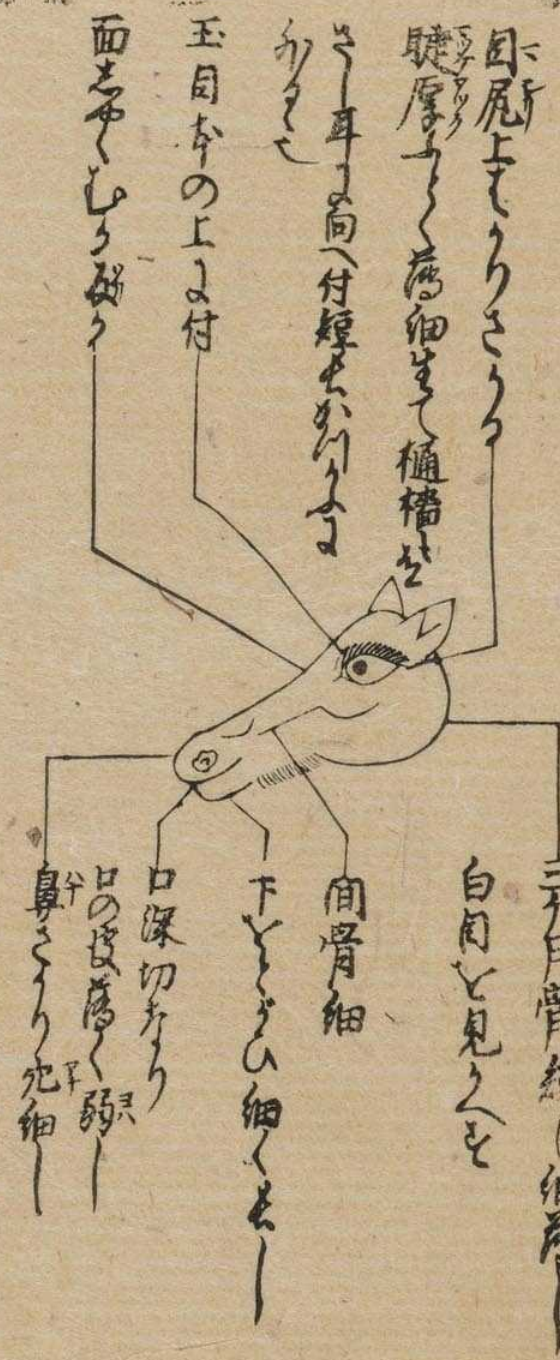
腰面ハ五以外四寸入上目録の角小て五  
 頸の節より九先迄三寸  
 さくも面六六以外四寸入上目録の角小て五





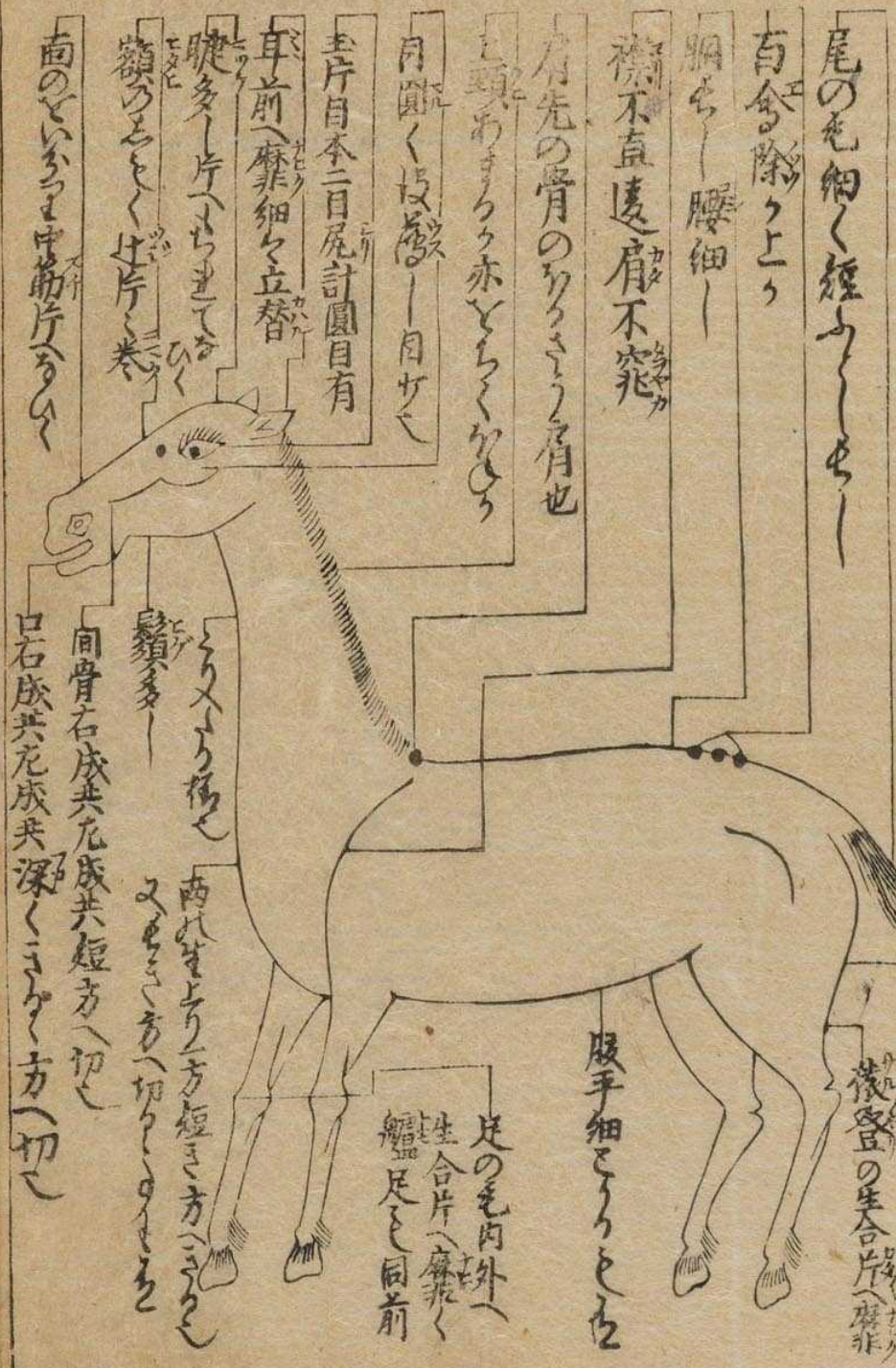


けがけ掛厚一毛細長龍の毛なり足太く節何れも尻尾の毛細一  
以馬



面細一短一在腹の節より一せいさいの節より一腰の骨のさ  
てとさう色薄毛の間とわ骨の間廣内股切揚り血向短一  
毛より一毛一赤はと細の根より一頭の根より一頭より  
下頭より一お足腹の下(下)より付て

切馬つをけさい揚馬百曲之躰





はと間骨れあひびど肉厚くもろ間骨長とろろろ亦短くもろろ事とろろ

鼻草の節は骨の上と服薄くさくれろろの喰と

をけろろ事とろろ

眼大は玉とろろ冷と強出ろろろやろろろ自ありは眼に

大はあろろろろ眼の肉とろろろ腫油ろろろ動くハ切

或は或揚也眼大ははれとろろろろろろろろろろろ

とろろろ眼の肉とろろろ肝要

睫下ハハハ一極ははろろろろろろ又睫目頭の方へはれろろ

とろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

計厚もろろろ生てろろろろろろろろろろろろろろろろ

とろろろろろろろろろ

右めばろろろ何と切込揚百曲之骸也

同くハハハ入ろろろろろろ喰ろ曲とろろろ骸也

拍耳は向付ろろろろろ時向ろろろ凡耳ハハハ入ははれは

と曲はろろろろろ眼へはれろろろろ

頭の根薄く肩はろろろ腕は厚くたろろろろろ

胸はろろろ生合一方ハはれろろろろろろろろろろろ

一方ハ肩窶くもろろろろろろ又短ろろろろろろろろろ

也ろろろ短くのろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

胸はろろろ生合のとろろろ芭蕉毛のろろろろろろ

へはれろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

芭蕉毛ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

とろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

上體のろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

馬の尾腰へはれろろろろろろろろろろろろろろろ

狼尾は内股へ尾とろろろろろろろろろろろろろろ



尾尾はら尾蛇尾わけ尾栗尾尾筒うくわ  
 らうぬい悪し尾筒老さうと西へ短うさうと  
 西へ尾筒細く望くはれ肉はありうと  
 尾筒のあれ脇は肉あめひめ腰く同く尾筒あり  
 ありさうへ喰う標とさうさうは短く不所翼あり  
 は短く短くさう尾筒ありあれたるあうさう方へ  
 切込し尾筒はあ肉厚くぬひめ肉はくさうさう  
 馬へうくは短くさう飼ふとれと瘦はさう曲馬  
 とさ場へ川おせく脇へけ目と付りて

おは摺付り馬

切馬の躰ありけおは骨うくは掛厚くは股さう同  
 節あまに耳さく面さく下さうひ頭は川付頭  
 短くうくはさけめ腰は腰間口く短く腰細  
 く目細くさうり

おはふお馬

居たりさう躰ふて前足は腕れ節さく付短足股さう  
 下へ細く節さうり下臨は頭揚さうりして白を際さう  
 毛脊中迄のりり前肢頸の方へ指お付耳向へさう同  
 凡くさうさう目のさうり毛腰

おは鼻息く馬

耳は根細く一寸餘を団合さう耳細くさうさうり  
 常ふ鼻息ありさうさうり付は鼻息荒く吹へ目乃  
 玉中く細く股さうりへさう短く細くさうへさ時さへ  
 見乾さうさ付は針川さう短く力さうひくさう  
 毛腰く細く短く毛汗はさうり之尻さうおはさ  
 今く如喰時とありさうさうへ

おはゆりさう馬

前足とさ廣くさうさうり付は前足の門は足は



体しへ腕尻細く窵くうへるふ細と所く  
先密と齒は掛て引て見ゆ

橋をもさしひ乃馬

肩よりうへるうへ付べし本は半膝なは服へるあ  
足肩とめささばりゆの猿股ゆく腰とつうとも云里  
あしと小喰馬

頤せり三ヶ月骨は開せり中にも頤の方せづ齒乃  
内角ひさし毛は二歳より六歳まで乃事には校し  
唯長く細し頤の骨肉は隔り別はあつ極むあ股二  
の間壁く肉より五腕あへ上は右は腹背ゆひあ  
く色蒼毛乃同度く皮腹細く毛門乃中にほる  
ありしきり

揚馬

腰の骨脊迄ありてつまりしう股は通股ふ

くせいにしいの骨多く付一足つまり立く腰尻より  
て前肢腋の方より付前肢細く後れ骨多く付一足  
多く前肢小より付前肢より下付より頤多く付  
短し面中より顔ひさしとくひさし齒も下齒  
大よ上と同なる

河郎之馬

毛細く短く毛より金毛けがれ足乃毛多く面は  
毛も多し面より毛より唇は毛も多し口は乃  
肉赤し水と見て口よりさむべしとらゆの時も足  
うれとす

片おろしの馬

目尻あろし  
頭三頭より  
馬大より

面大よ長し  
脊骨張あろし  
振舞馬平くろし



股平く大股也

前脛は足同狭

前脛ととも廣く立

諸れり一の馬

頸短

頸の根より細

胸長

折骨より膝より

馬細

川あり一は方二は出べ

右の外脛より内脛より馬より一は方二は出べ

よわより五脛より六脛より内脛より一は方二は出べ

拍子遠鞍より馬

下脛引けりの一は付

頸短

前脛足平く立

下脛中

前脛後乃節不折

脊骨衆出より立

股小脛也

尾引込尾筒細

前脛鏡の節高

前脛足同廣

脛短

脛細

脛先細

小脛之馬

口より

前脛中節向たる

芭蕉毛也

前脛節より

尾筒より

凡大也

無之馬

口より六面短耳短耳の根厚く上頸短く下頸より頸

前脛足細

腰と振

世に世一の節より

尾骨より

脛先の骨の節

胸より

前脛足より

前脛上脛より下脛

脛足より小立







